

『先人からの緑、新しいまちの緑、生垣を後世に伝えて行こう』

永井地区は中心を東北本線が南北に縦貫しており、その東側は住宅街、西側は農住混在地域の特征がある。これまでまちづくりの会では地域資産の点検・発掘を行ってきた。

今回、その中で地域に昔ながらの農家の生垣が残されていること、また、住宅街にも新たな生垣が存在していることに注目。景観からの地域づくり事業を利用し、状況把握のもとに、景観的視点からまちづくりに活用できないか検討することとした。



点検実施地域：永井地区全般（上永井・中永井・下永井） ピンク色区域内



景観点検（生垣調査）実地調査
（10月12日 下永井地区）

2班に分かれて生垣の調査を行った。白地図と緑のマーカーペンを持ち、これはと思う生垣をチェックし、カメラで撮影した。この実地調査をもとに景観点検マップを作成した。実地調査はこのほか上永井・中永井地区でも実施した。



景観点検ワークショップ
素晴らしい写真を選ぼう
（11月29日 永井児童センター）

実地調査で撮影した写真の中でより選ばれた写真（37枚）を景観点検マップに貼る。
マーカーによるチェックに加え、現実の写真を貼ったことにより地区内の特徴がさらに鮮明になる。



景観点検検討会
生垣人気コンテスト
（12月27日 上永井公民館）

生垣を緑のマーカーでチェックし、代表的な素晴らしい写真を貼った景観点検マップをもとに、まちづくりの会員全員による人気コンテストを行う。
どの生垣もすばらしく、迷うこと多し



景観講演会
（1月31日 永井児童センター）

演題『まちづくりと景観』
講師 三宅 諭 先生
（岩手大学農学部准教授）
まちづくりにおいて景観、中でも生垣の果たす役割について講演会を開催。
まちづくりの意義、生垣の歴史的なとらえ方などを研修した。

提案内容

景観点検（生垣調査）実地調査からの意見から

- ・生垣がつながる生垣群が何箇所かある。中でも、旧志和街道沿いの生垣は道路とともに歴史を感じる。後世に残す方法を考えよう。
- ・色々な生垣があり歩いていて楽しい。散策コースを提案しては。
- ・新しい住宅街と旧家のバランスが良い。このバランスを崩さないように。
- ・新旧それぞれ良いところがあり、住んでみたいまちです。

永井地区は東北本線をはさんで東側が土地区画整理による新しいまちづくりが行われており、区画は盛岡市の緑化重点地区にも追加指定された。西側は農村的景観がかなり残されており、志和街道の名残りもある。今後は東側の地域を『新市街地に生垣の緑が映えるまち、永井』、西側の地域を『よみがえる古の道、永井の志和街道』などそれぞれの地域の特性を中心に据え、多種多様な住人の意見を聴取していきながら、モデルプラン作成につなげていく。